

以上の話を受け、全校で一体となって歌うことができました。

その後、生徒会総務委員が中心となり、三送プロジェクトを行いました。頸城中学校に関するクイズやお祝いメッセージの入ったくす玉や3年生の集合写真と全校の集合写真撮影を行いました。3年生からはお礼に「世界に一つだけの花」の合唱がありました。2月から他の委員会も三送プロジェクトを行ってきました。また、調理員さんからお祝いのメッセージをいただきました。このプロジェクトをとおして、全校が一つになりました。



### 3月7日の様子より

3月7日(火)は、公立高校一般入試の日でした。1・2年生は実力テストに、学校に登校した3年生は校内美化に一生懸命取り組みました。用務員さんも、卒業式に向けて、桜の花を綺麗に咲かせたり、玄関を綺麗にしたりしてくれました。





頸城中HPにアクセス！

# 頸城

令和5年 3月17日 No. 11

上越市立頸城中学校

〒942-0164 頸城区瀉口 60

TEL 530-2405 FAX 530-2014

学校メール kubiki-j@jorne.or.jp

## 祝 第43回卒業証書授与式～式辞より～

上越市立頸城中学校長 小池 修

頸城中学校 第43回卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。立派に成長し卒業証書を手にする我が子をご覧になり、喜びもひとしおかと存じます。



校長式辞

令和2年4月8日。入学式で、新入生代表誓いの言葉を述べてくれたのは、高木康我さんでした。「先生方や先輩方から教えていただくことを素直に受け止め、様々なことに挑戦し、新しい自分を発見していきたいと思います」と語ってくれたあの日から3年。

思い返せば、感染症が世界中に広がり、命を守るために学習や生活に制約をかけざるを得ない日々が続きました。また、雪にはなれっこの私たちですら予想しなかった、雪による6日間の臨時休校もありました。一方で、今も、遠い空の向こうでは戦争が続き、毎日、死の恐怖と隣り合わせの生活を送る人々がいます。先を予測することが難しい時代を生きていくこと、よりよく生きていきたいと願うこと、そのことを、強く実感させられた3年間だったのではないのでしょうか。

それまでの「当たり前」が通用しない、特別なこの3年間を、皆さんは一所懸命に過ごしてくれました。そして、一人一人が素晴らしい成長をみせ、その輝きは、学校全体の輝きにもつながっていきました。学年だよりのタイトルになっている「おひさま」に込められた願い「仲間も、自分も輝きながら、みんなで高め合っていく」とはどういう姿であるかを、皆さんは行動で示してくれました。本当に、ありがとう。

そのような皆さんに、感謝と激励の意味を込めて、ある方のお話をします。その方とは、23歳で松下電器器具製作所を立ち上げ、一代で今のパナソニックという大企業を築き上げた松下幸之助さんです。松下さんは、社長として入社試験の最終面接に臨むとき、必ずある質問をしたそうです。それは、

「あなたは、運がいい人ですか？ 悪い人ですか？」

という質問です。そして、「運が悪い」と答えた人は、優秀な人でも採用しなかったとされています。

また、インタビューで、「あなたはどのようにして成功できたのですか？」と尋ねられて、「家が貧乏だったから」「小学校しか出



在校生送辞

ていなかったから」「身体が弱かったから」の三つを挙げています。一般的に、これら三つは、物事をなし遂げようとするときの壁となるように思われがちです。

しかし、松下さんは、「家が貧乏だったから必死に働いた」「学歴がないからすべての人から学ぼうとした」「身体が弱かったから人に任せて、結果、人を育てることができた」と語っています。どんなことでも自分の意思でプラスに受け止め、ポジティブに考えて前へ進むことのできる人材こそが、会社を発展させるために必要だと考えていたのではないかと思います。

私たちは、日々様々な出来事に出会います。それをどのように受け止めるかによって、行動するときの意欲の熱量が変わってきます。感染症対策に明け暮れた3年間は、皆さんに我慢してもらったことがたくさんありました。「運が悪かった」と捉えられなくもありません。しかし、皆さんは前向きに、知恵を絞って、今できる最大限のことをやり遂げ、立派に成長しました。これからも、出会う様々な出来事を前向きに捉え、失敗を恐れずに挑戦してほしいのです。「自分は運がいい」と思って行動できる人は、物事がうまく運んだときに、周りの人に、自然と「ありがとう」と感謝できる人になります。また、たとえ失敗しても「どうしたら次はうまくいくだろうか」と考えて前に進める人になります。そういう人は、やがて運を呼び込み、自分が思い描く人生を歩んでいけるようになっていく、と私は考えます。

そのような意味で、入学の際に皆さんが誓った「素直に受け止め、様々なことに挑戦し、新しい自分になる」という言葉は、松下さんの考えにも通じる、「なりたい自分」に近付くための大切なヒントであると思います。



卒業生答辞



卒業記念合唱「道」

これからの人生でも、思いどおりにならないこと、心が折れてしまいそうなこともあるでしょう。そのようなときも、「運が悪い」とあきらめず、「この状況で、私にはいったい何ができるだろうか」と粘り強く歩みを進めてください。皆さんには、ぜひ幸運な人生を歩んでほしいと心から願っています。

改めまして、保護者の皆様。皆様には、当校の教育活動に、たくさんのご理解とご協力をいただきました。この場を借り、職員を代表して厚く御礼申し上げます。

本当に、ありがとうございました。笑顔の爽やかな、温かな気持ちをもつ、素敵な生徒と過ごすことができた日々は、私たち職員一人一人にとっての宝であり誇りです。生徒は、皆様の庇護のもとで立派に成長され、まもなく、自立を目指してそれぞれの道を歩んでいきます。これからも、人生の先輩として、温かく支え、見守っていただきたいと思います。

最後に、本日のご臨席が叶いませんでしたが、日頃から当校の教育活動に、陰に日向にお力添えをいただいている地域の皆様に厚く感謝申し上げます。式辞といたします。

## 卒業証書授与式の様子

1・2年生は、新型コロナウイルス感染症対策のため、各階の食堂で、リモート形式で卒業証書授与式に参加しました。1・2年生を含めて素晴らしい態度で参加した式となりました。その様子を紹介します。



## 伝統を受け継ぐ

3月8日（水）、卒業証書授与式前日に、全校で「七色模様」を歌いました。「七色模様」は、頸城中学校創立40周年を記念して、当校卒業生のKAZZさんが所属するラップボーカルユニットのRafverryさんから作っていただいた、頸城中学校にとってとても大切な曲です。コロナ禍の中で、昨年度、音楽祭の全校合唱で歌い、今年度は、卒業の時期に全校で歌うことにしました。2月14日（火）に、武藤稜生徒会長と大瀧ほの香R5年度生徒会長の話から、全校合唱に向けた取組が始まりました。それを紹介します。

「七色模様」は、頸城中学校創立40周年を記念して作られた歌です。この歌は、新潟県内を中心に活動しているラフベリーが、頸城中のために、頸城中の生徒のために、特別に作ってくださった歌です。私は、頸城中生徒という自覚をもって歌い、どんなときも全員が一体感を感じられるような歌にしたいです。（大瀧 ほの香さん）

「七色模様」の歌詞も曲も、私たちに寄り添い、しっかりと表現されています。喜怒哀楽で大きく揺れ動く私たちに、「きっと大丈夫」と、安心と元気、勇気を与えてくれます。まさに、「第二の校歌」です。この曲を歌いつないでいくのが私たちの役目であり、誇りになります。全校で気持ちを一つにして歌いましょう。（武藤 稜さん）